

<p>① 設定 目標</p>	<p>魅力ある授業の創造</p>
<p>② 本年度の 取り組み 状況</p>	<p>1. 学力向上委員会が核となり、学校全体の活性化を図り、組織的な学力向上の取り組みの一層の推進を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校活性化計画の策定</li> <li>・研究テーマの設定</li> <li>・各種テスト（全国学力・学習状況調査、チャレンジテスト等）の分析と共有化</li> <li>・校内全体研修会の企画</li> <li>・運営</li> <li>・授業研究会の企画・運営</li> <li>・各種情報の発信</li> </ul> <p>2. 授業のユニバーサルデザインに基づいて、授業スタンダードの定着や全ての子どもが深い学びを実現した「わかる・できる」授業づくり、家庭における自学自習力向上に取り組んだ。</p> <p>①全教職員で共通理解したこと(明確化した今年度のポイント)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ア、ユニバーサルデザインを取り入れた(視覚化・焦点化・共有化)の授業の構造化</li> <li>イ、主体的・対話的な深い学びを実現した授業の創造</li> <li>ウ、「振り返り活動」を取り入れた授業の創造</li> <li>エ、生徒の自学自習力の向上</li> <li>オ、小中連携の充実</li> </ul> <p>②具体的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ア、主な校内研修             <ul style="list-style-type: none"> <li>教委と連携し講師を招聘し、模擬授業や講演を通して、研修を深めた。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・8月25日 本校と東能勢小学校合同の研修会を実施 講師が指導者役、教員が生徒役となり模擬授業や講義等を通して、主体的な対話的な授業づくり研究をした。</li> <li>・12月5日 校内授業研究(理科) 主体的な対話的な深い学びをある実践授業をし、取り組みを進めた。</li> <li>・3月下旬 本校と東能勢小学校の合同研修会を予定</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>イ、公開授業週間(学期に一回、6月、11月、2月に実施)             <ul style="list-style-type: none"> <li>1週間を設定し、この間に、一回は授業見学を行い、相互評価を行った。また、データは、担当者が集計・分析し、授業づくりに活かしていった。また、今年度、授業者が研究を深めた授業については、参観希望の日時を事前に知らせ合い、相互評価のさらなる充実を図った。</li> </ul> </li> <li>ウ、自学自習力向上のために             <ul style="list-style-type: none"> <li>毎日宿題、週末課題の実施など、学年にあった方法で行い、子どもたちの習慣化を図った。</li> </ul> </li> <li>エ、生徒会が中心となって、「東能勢授業スタンダード」を実践した。また、生徒会が、生徒全員に自分自身と学級集団についてのアンケートをとり、実践の成果と課題を分析し、生徒集会で説明し、PDCAにより、さらなる実践に取り組んだ。             <ul style="list-style-type: none"> <li>「東能勢授業スタンダード」                     <ul style="list-style-type: none"> <li>《続けていきたい3つのこと》                             <ul style="list-style-type: none"> <li>時間・・・チャイム着席をする。</li> <li>あいさつ・・・授業のはじめと終わりのあいさつをする。</li> <li>教え合い・・・互いに話し合い、教え合いをする。</li> </ul> </li> <li>《変えていきたい3つのこと》                             <ul style="list-style-type: none"> <li>準備・・・忘れ物をなくそう。</li> <li>集中・・・授業中の私語をやめ、人の話をしっかり聞こう。</li> <li>積極性・・・すすんで発表、質問しよう。</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>

<全国学力・学習状況調査の結果から>

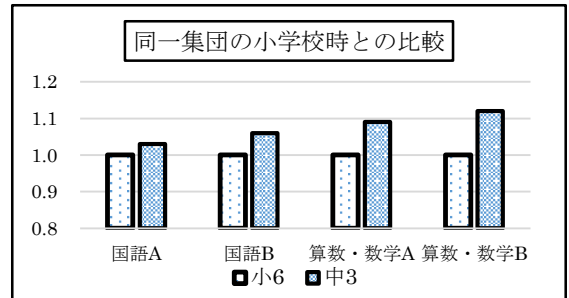
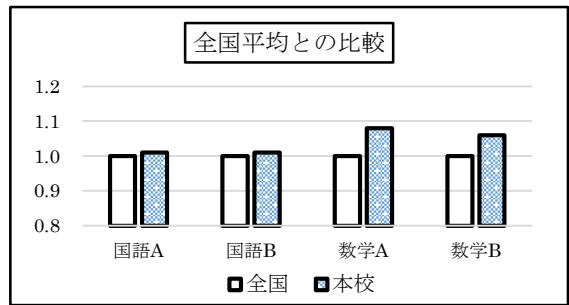
【学力調査結果の概要】(平成 29 年 4 月 18 日全国の中学校 3 年生対象に実施)

国語は A・B とも全国平均とほぼ同程度でした。数学は A・B とも全国平均を上回りました。(グラフ右上)

また、本校の 3 年生が、3 年前の小学校 6 年生の時に受けた全国学力・学習状況調査の平均正答率を 1 として、今回の結果を表すとグラフ右下のようになります。

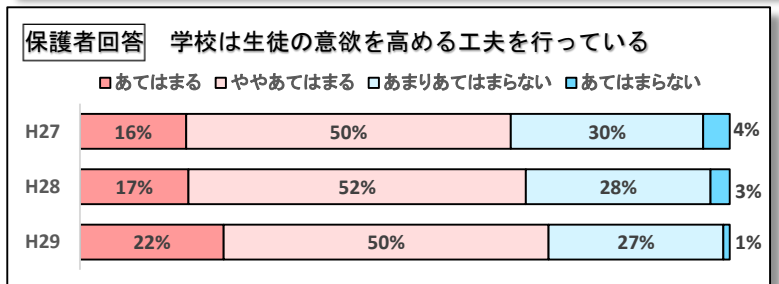
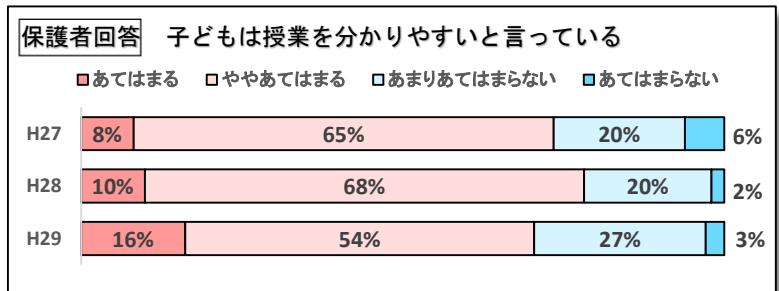
このグラフから、この 3 年間で、国語 A・B、数学 A・B ともに力が伸びたということが分かります。大阪府全体では、小 6 時と中 3 時はほぼ同程度(本町 HP 掲載の「平成 29 年度全国学力・学習状況調査結果」参照)に対し、本校は中学校になって上がっています。

(詳細は、別紙 H29/11/13 配布をご覧ください)



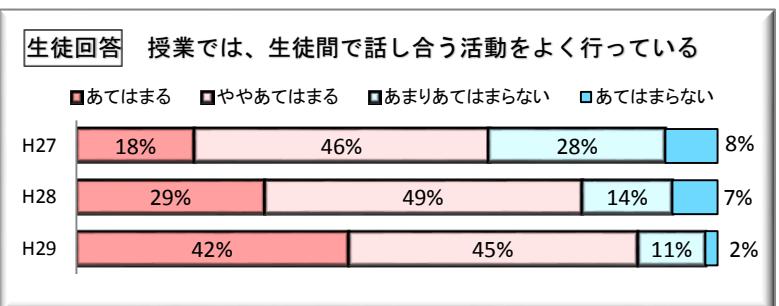
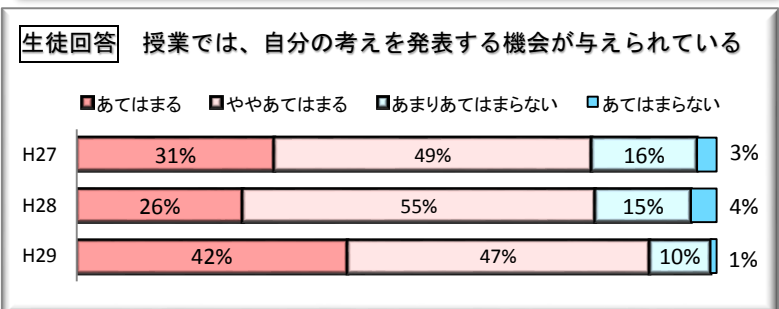
<学校教育自己診断の結果から>

学力向上のためには、生徒にとって分かりやすく、意欲を高める工夫がある授業であることが大切な要素の一つです。右グラフの保護者回答から、本校のユニバーサルデザインに基づいた授業改革の取り組みの成果が表れています。



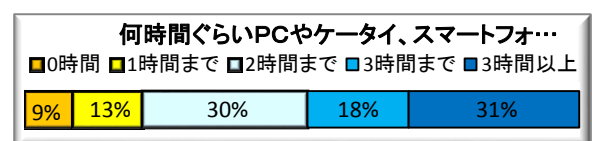
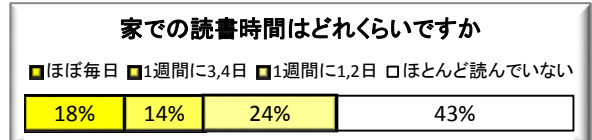
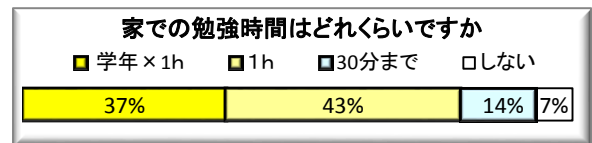
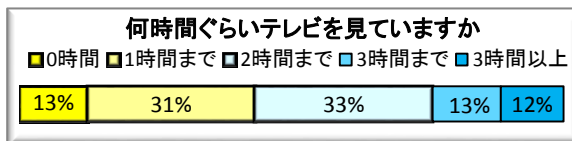
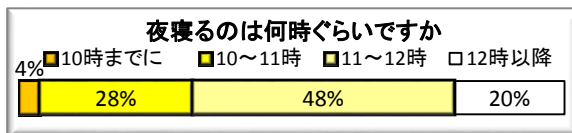
また、今年度の重点の一つに、昨年度までの取り組みに加え、主体的・対話的な深い学びを実現した授業づくりの取り組みをすすめています。主体的・対話的な学びを実現するためには、生徒が自ら発表する場面や生徒間での話し合い活動の充実が大切です。

右グラフの生徒回答から、「あてはまる」+「ややあてはまる」の数値が増えていることは、教職員による新たな授業づくりを生徒が実感しており、順調に授業改革が推進していると考えています。



さて、学力向上をめざすため、家庭での自学自習力の向上も大切です。家庭で自学自習をするためには、生徒の家庭学習に対する意欲と時間の確保が当然必要となります。次の5つのグラフは、本校の生徒回答です。これらのグラフより、帰宅から就寝までの過ごし方の傾向がわかります。

睡眠時間に個人差があるとはいえ、成長期である時期の十分な睡眠時間の確保と家庭学習を考えると、読書、テレビ、電子機器使用など考えてしなければ時間が足りません。充実した家庭学習習慣確立のため、テレビ、ゲーム、スマートフォン、ケータイ、PCの使用に関し、自分自身をどのようにコントロールできるかが最重要です



④ 学校関係者評価（学校協議会等からの提言）

- アンケートの結果から、授業に関する回答は評価が高いことから、いろいろ工夫されていると想像できます。
  - 学校教育自己診断の保護者回答の結果から、ユニバーサルデザインなどの学力向上についての取り組み、保護者から一定の評価を得ているものと思います。
  - アンケートの生徒回答の、「授業では自分の考えを発表する機会が与えられている」「生徒間で話し合う活動をよく行っている」という結果を見ても、授業がよく工夫されている事がわかる。とてもよいと思う。
  - 「東能勢授業スタンダード」の実践で、生徒会が生徒対象にアンケートを取り、実践の成果と課題を分析、生徒集会で説明しさらなる実践に取り組んだことは大いに評価します。そして、「変えていきたい3つのこと」の積極性(すすんで発表、質問しよう)は、生徒回答アンケートでの「自分の考えを発表する機会が与えられている」と「生徒間で話し合う活動をよく行っている」に明確に表れており、大いに評価できるものです。
  - 学校教育自己診断の生徒回答の結果から、生徒自ら発表する場面の充実や生徒間での話し合い活動が推進されていることがうかがえます。生徒のスピーチや友達の意見を最後まで聞くことができる力の向上につながればよいと思います。
  - 全国学力学習状況調査の結果から、学力は全国平均を上回っております。これは先生方が丁寧に授業をされている成果であると思います。一方で1日の勉強時間が全国や大阪府より短い傾向がありますが、高校では自分で学習する力が必要とされますので、その力を伸ばしていただきたい。
  - 充実した家庭学習習慣の確立では、毎年の課題の一つになっている。東能勢のみならず全国的な問題となって社会問題と言っても過言ではないでしょう。一学校や一生徒、一家庭だけで解決できるものではありませんが、1日の生活リズム、家での過ごし方の時間配分など決めておくことが大切ではないでしょうか。
- いずれにせよ PC やスマホ、携帯に触っている時間、3 時間越えが 49%もあるのは残念です。今やテレビよりこうした機器に触っている時間が多く、居場所化していることが読み取れます。 学校・地域・保護者あがりの取り組みが必要かと考えます。

<p>① 設定目標</p>	<p>豊かな心・思いやりの心の育成</p>																																													
<p>② 本年度の取り組み状況</p>	<p>豊かな心をはぐくむため、様々な行事を工夫し取り組んだ。</p> <p>&lt;取り組んだこと&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間を通し、行事への取組後に、自分の振り返りとともに、仲間のがんばったところを考えさせ、仲間で共有した。そうすることで、自尊心を育むとともに、より信頼できる集団へ育み、互いの良さを認め合うことのできる生徒育成の取り組みを進めた。</li> <li>・道徳の授業を管理職も含め、全教職員で実践することで、道徳の時間の充実を図るとともに、豊かな心の育成を重点として取り組んだ。</li> <li>・生徒会活動においても、豊かな心の育成を重点として、「東能勢中フェスタ」「体育祭」「百人一首大会」などの行事に取り組むとともに、毎週水曜日の登校時における挨拶運動を行い、豊かな心・思いやりの心を育んだ。</li> <li>・生徒の困り感等をすぐにキャッチし対応できるよう日頃から教職員で声を掛け合い共有につとめている。また、管理職、代表の教員、スクールカウンセラー、心の相談員などで組織する生徒指導連絡会を毎週開催するとともに、各学期末には生活アンケートやミニ懇談を実施するなど、きめ細かく生徒に寄り添い、指導・支援・相談等を行っている。</li> <li>・人権を尊重し、生徒一人ひとりを生かし大切にしたいきめ細かな教育活動を展開し、人権尊重の精神を育成した。</li> </ul>																																													
<p>③ 学校教育自己診断・授業評価等定量的評価及び定性的自己評価内容</p>	<p>&lt;学校教育自己診断の結果より&gt;</p> <p>右のグラフから、生徒にとって、学校に行くのが楽しい割合が増えており、さらに、保護者もそのようにとらえていることが分かります。このアンケートを毎年12月の同じ時期にとっている点から、好ましい結果だと考えています。学校は、学習する場です。いろいろな課題を仲間と力を合わせ乗り越えて成長する場です。努力している過程は決して楽しくないかもしれません。しかし、課題を乗り越え達成感を得ることで、学校生活が充実し楽しくなります。2学期の最後の時期にとったアンケートで、楽しく感じている割合が増えていることは、それだけ、充実した学校生活となったと考えます。</p> <p>右図の今年度は、肯定的評価が96%となっており、家庭でも積極的に参加する生徒たちを感じていただいていることがわかります。</p> <div data-bbox="655 1016 1437 1312"> <p><b>[生徒回答] 学校へ行くのは楽しい</b></p> <p>■あてはまる ■ややあてはまる □あまりあてはまらない ■あてはまらない</p> <table border="1"> <tr> <td>H27</td> <td>41%</td> <td>45%</td> <td>11%</td> <td>3%</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>43%</td> <td>43%</td> <td>7%</td> <td>7%</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>45%</td> <td>47%</td> <td>8%</td> <td>0%</td> </tr> </table> </div> <div data-bbox="655 1328 1437 1624"> <p><b>[保護者回答] 子どもは学校での生活が楽しいと言っている</b></p> <p>■あてはまる ■ややあてはまる □あまりあてはまらない ■あてはまらない</p> <table border="1"> <tr> <td>H27</td> <td>28%</td> <td>53%</td> <td>15%</td> <td>4%</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>31%</td> <td>51%</td> <td>15%</td> <td>3%</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>56%</td> <td>38%</td> <td>6%</td> <td>0%</td> </tr> </table> </div> <div data-bbox="655 1639 1437 1890"> <p><b>[保護者回答] 子どもは学校の行事に積極的に参加しようとしている</b></p> <p>■あてはまる □ややあてはまる □あまりあてはまらない ■あてはまらない</p> <table border="1"> <tr> <td>H27</td> <td>65%</td> <td>30%</td> <td>1%</td> <td>4%</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>72%</td> <td>23%</td> <td>3%</td> <td>3%</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>71%</td> <td>25%</td> <td>1%</td> <td>3%</td> </tr> </table> </div>	H27	41%	45%	11%	3%	H28	43%	43%	7%	7%	H29	45%	47%	8%	0%	H27	28%	53%	15%	4%	H28	31%	51%	15%	3%	H29	56%	38%	6%	0%	H27	65%	30%	1%	4%	H28	72%	23%	3%	3%	H29	71%	25%	1%	3%
H27	41%	45%	11%	3%																																										
H28	43%	43%	7%	7%																																										
H29	45%	47%	8%	0%																																										
H27	28%	53%	15%	4%																																										
H28	31%	51%	15%	3%																																										
H29	56%	38%	6%	0%																																										
H27	65%	30%	1%	4%																																										
H28	72%	23%	3%	3%																																										
H29	71%	25%	1%	3%																																										

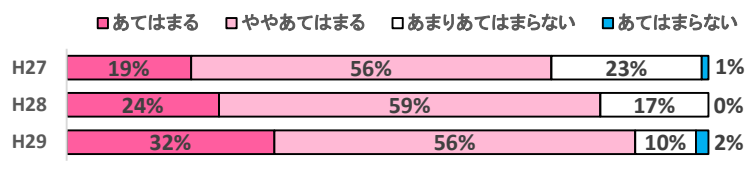
「人権を尊重する意識や、命を大切にすることを育てている」かの、今年度の保護者評価は、88%の肯定的評価となっています。

「豊かな心・思いやりの心の育成に努めている」かの、今年度の保護者評価は、83%の肯定的評価となっています。

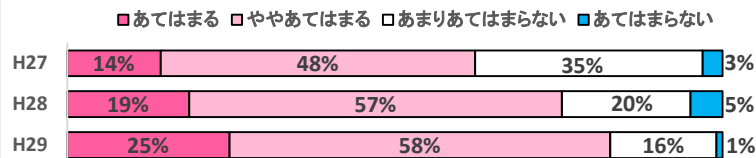
東地区は、保・幼・小・中の間、各年代では40人に満たない小集団となり、集団替えがない同じ仲間と10数年間ともに過ごすこととなります。この特徴を最大のメリットにし、東地区でしかできない育み・教育をめざしています。一方、小さい集団で、集団の中に居づらさを感じている生徒が各学年数名います。この生徒たちが集団の中で安心できる居場所として活動できる人権教育の充実をめざすことが大切です。

豊かな心・思いやりの心を育むための第一歩が「気持ちの良いあいさつができる」ことだと考えます。右のグラフは、生徒アンケートの結果です。年々、あいさつ習慣が向上していますが、さらに気持ちの良いあいさつができるよう取り組みを推進します。

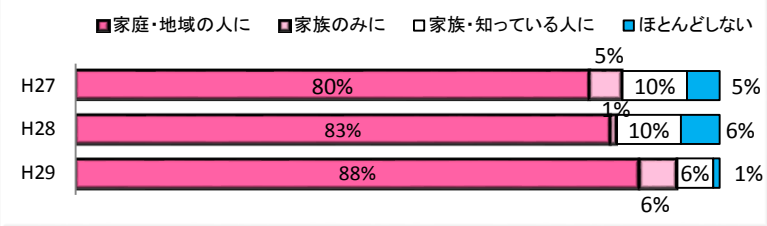
**【保護者回答】 学校は子どもの学年に応じた人権を尊重する意識・命をたいせつにする意識を育てている**



**【保護者回答】 学校は生徒の豊かな心・思いやりの心の育成に努めている**



**【生徒回答】 家庭や地域では挨拶をしていますか**



④ 学校関係者評価（学校協議会等からの提言）

- 学校教育自己診断の結果から、学校へ行くのが楽しいと回答した生徒や保護者の割合が非常に高い。その他の質問も肯定的な回答が多いことから、学校・先生方が、保護者から大きな信頼を得ていることがうかがえます。
- 地域的に小集団ということもあり、小さい頃から見守ってくださる地域の方、先生方との触れ合いも多く、心の成長により影響が出ていると思います。学校全体、クラスといった大きな単位での取り組みは積極的に行われているように感じられます。先生方は毎日とても忙しい業務をこなしておられると思います。生徒1人ひとりに向きあうことを大切に続けていただくと保護者としてはありがたいです。
- あいさつがとても大事ということがよく分かる。
- 「道徳の授業を全教職員で実践…」とあるが、どういったことの授業が行われているのかわかりたい。学習指導要綱では改善されたと聞かすが、時勢を反映したものとなっているか。
- 「人権を尊重する意識…」では88%の肯定的評価とあります。過去、「いじめ問題」の取り組みに重点が置かれたこともありましたが。最近、全国を見ればいじめによる事件が起きているのは記憶に新しいことです。そうした意味からも、いじめ防止につながる「豊かな心・思いやりの育成」のための具体的な取り組みを表記されたいと思います。

<p>① 設定 目標</p>	<p>小中連携、保護者・地域との連携</p>
<p>② 本年度 の取 組み 状況</p>	<p>小中連携の充実</p> <p>小中連絡会議を定期的に行い、小中共通の課題を研究・協議できた。その中で、次のよう に取り組を進めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は、小学校6年生を昼から本校に来校する機会を3回(9/12、10/23、1/15)設定し、 次のような活動を行い、中学校生活のスタートをさらに前向きにとらえさせた。昼食はデリ バリー弁当の試食をした。5・6限は体験授業、体験クラブ、中学校施設で小学校の学習、 本校生徒会役員との交流等を行った。</li> <li>・本校で取り組んでいる「授業スタンダード」を「東能勢中校区の授業スタンダード」として 小学校と共有した。今後、PDCA サイクルの中で充実を図っていく。</li> <li>・小学校、中学校それぞれの全国学力・学習状況調査の分析結果を交流し、東地区小中9年 間での学力向上に向けた取り組みを進める。</li> <li>・中学校の定期テスト1週間前とリンクさせて、小学校でも家庭教育強化週間を設けて、校 区として家庭学習に取り組むシステムを継続している。</li> <li>・学校協議会を小中合同で行う(3/8 予定)。小中連携してできる取り組みを考え、意見を交 流する。</li> </ul> <p>地域・保護者と連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校区の9つの自治会に学校だよりを毎月届け、自治会で回覧をしていただき、本校の教育 活動の様子を知らせている。</li> <li>・校区青少年育成協議会では、青少年指導員を中心に、保、幼、小、中、校区9つの自治会 が連携・協働し、10月21日のミニスポーツ大会を開催した。</li> <li>・地域の指導者による放課後の学習「まなび舎n i g h t」が3年目となり、場所を中央公 民館に移し、毎週水曜日を中心に約2時間学習に取り組んでいる。</li> <li>・PTA主催の草刈りデーを設定(6/17、9/9、25、27)し、環境整備を行った。</li> </ul>

<学校教育自己診断 保護者アンケート結果より>  
 <学校教育自己診断の結果より>

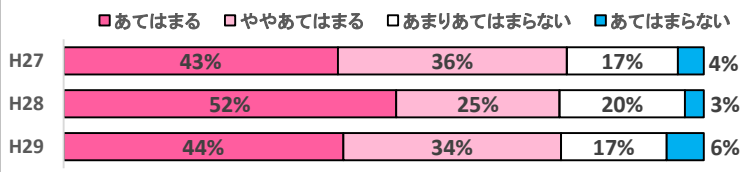
右グラフより、学校からのたよりやお知らせ等が2割強の保護者に届いていないようである。確実に保護者に届くよう生徒に働きかけていかなければいけない。

学校の教育方針等が保護者に伝えていると、年々評価されており、今後も工夫をしながら伝えていきたい。

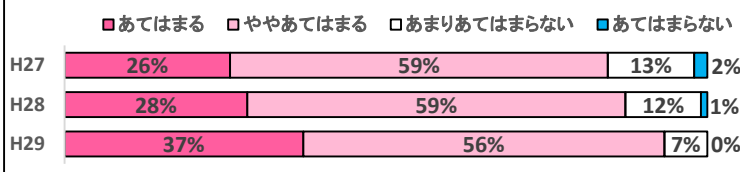
東能勢小学校との連携をいろいろ工夫し取り組みを進めているが、約2割の保護者には見えにくいようである。発信方法をさらに工夫し、保護者の方にも理解をさらに得て、学校、保護者、地域の方々との連携を深め、生徒を育てていきたい。

右グラフから、家族で地域行事に参加しているのは約半数であるが、中学生になると、友だち同士で行事等に参加するようになり、想定内の結果とも分析できる。一方、青少年育成業議会主催のミニスポーツ大会の様子から、東地区ならではの学校と地域の方々、保護者、生徒、子どもたちの温かいつながりを大きく感じます。今後も、学校・保護者・地域の方々との協働を大切にしていきたい。

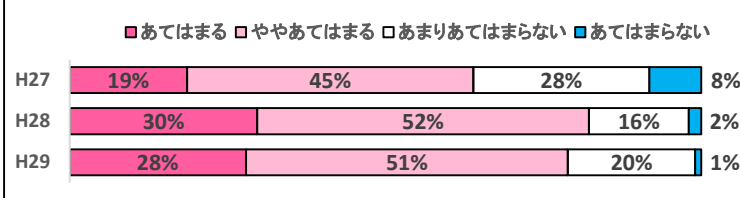
【保護者回答】子どもは学校だより・保健だより・月予定表や学年通信など各種のたよを見せている。



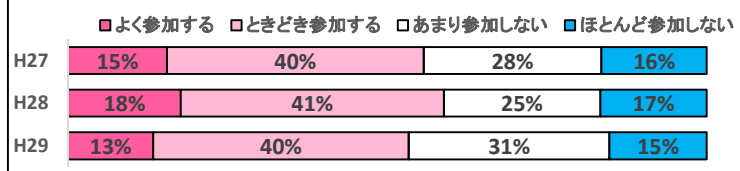
【保護者回答】学校は教育方針などをPTA 総会や学校だよりなどの通信で分かりやすく伝えている



【保護者回答】中学校と小学校が協力して生徒を育てようとして、よく連携している



【保護者回答】お子さんと共に、地域の行事に参加されますか



③ 学校教育自己診断・授業評価等定量的評価及び定性的自己評価内容

④ 学校関係者評価(学校協議会等からの提言)

- 小中の学校同士の連携はよくとれていると思います。一方で、PTA、地域までの連携となると、PTAは毎年役員が変わり、学校の先生は忙しく、なかなか密接なつながりは持てない現状があります。この連携がうまくすすめば全体で取り組める行事が増え、より学校生活をバックアップできると思います。
- 小中一貫という声が上がっている中で、まだまだ小中の話し合いや地域との連携の場が少ないように思う。
- 小中連携の取り組みは、「広報とよの」3月号にも掲載されています。アンケート結果では「約2割の保護者には見えにくい」とあるが、払拭の一助となることを期待したい。
- 「学校だより」が自治会から回覧されていますが、十分行き渡るように各自治会に必要な部数を確認するなど、効果的な方法を考えたほうが良いと思います。
- 町のホームページ内で「東能勢中学校」を検索しても東能勢中学校のコンテンツができません。これは「教育委員会」内の「豊能町の学校紹介」から直接外部サイトである東能勢中学校のサイトにリンクしており、町ホームページ内に「東能勢中学校」のサイト・コンテンツがないためです。



